以上の区別をするのが当然と思われる。 *Anopheles* 中、*A. lindesai japonicus* は外部形態にも特異な性質を示しているが、第9背板の形状と、本邦産ハマダラカ中本種のみが馬蹄型構造物を有さない点は亜属を異にすると思われる。又、*Aedes* 亜属の *A. nobukonis* は Barraud の記載している種の内部生殖器と同一グループに属するものであるが、同亜属に入る他の蚊、*A. yamadai* 及び *A. esoensis* はこれと明らかな相違を見せているが、*A. nobukonis* の幼虫及び雄の生殖器の記載がなく充分比較することが出来ない。しかし、少くとも南方系の *Aedes* 亜属と、北方系のそれとは区別されるべきものであらう。(順天大・生物、伝研・寄生虫)

京都市附近に於ける蚊の季節的消長：松尾喜久男 Ma-tuo, K.: Seasonal prevalence of Mosquitoes about Kyoto City

京都市右京区檜原町に於て light-trap による蚊成虫採集(1954)、吸血管による牛舎内蚊成虫採集(1955)、標準杷杓による水田幼虫・蛹採集(1955)をそれぞれ年間概ね10日の間隔を以て行い、light-trap 採集では4属12種計2352個体、牛舎採集では4属8種計1523個体、水田採集では2属7種計1162個体を採集した。主な種類の個体数を通覧すると *C. pipiens* は light-trap 採集47.9%、牛舎採集10.4%、水田採集2.0%、*An. sinensis* はそれぞれ28.7%、43.7%、63.6%、*C. trit.* と *C. vishnui* (両種成虫の厳密な鑑別点が未だ発見されないで区別せず)は15.3%、39.9%、水田採集では *C. trit.* 19.5%、*C. vishnui* 0.9%、*C. orient.* は3.3%、0%、8.8%、*Armig. subal.* 0.6%、5.1%、0%、*C. hayashii* 1.0%、0%、4.4%であつた。全体を通じて多く採集された *C. pipiens*, *An. sinensis*, *C. trit.* と *C. vishnui* について3種の採集法による消長を比較総合すると *C. pipiens* は3月下旬頃に既に越冬雌成虫が出現し、その産出した第一世代成虫が5月上旬に出現し、6月下旬頃に最高頂に達し、11月下旬頃に姿を消している。その後は越冬態として留舎等に潜陰するように考えられる。*An. sinensis* は4月上旬に既に越冬雌成虫が出現し、その産出した弱高令幼虫が4月下旬には現れ、5月中旬にはそれが羽化し始めその後漸次増加し7月に最高頂に達し、8月上中旬にかけて幼虫の減少にともない成虫も減少その後又8月下旬頃に幼虫、成虫共再び山をえがき、幼虫は成虫にさきがけ10月中旬を最後に姿を消し、成虫は10月下旬頃に越冬態に入る。*C. trit.* と *C. vishnui* は5月下旬頃に越冬雌が出現し、雄は6月中旬

頃から出現し、第一世代の羽化がこの頃から始まる。6月下旬頃から個体数も増加し、7月下旬より8月上旬にかけて最高頂に達し10月上中旬頃越冬態に入る。猶 *C. trit.* と *C. vishnui* に関して両成虫の厳密な鑑別点が出来れば改めて両種の季節的消長について再検討したいと思つている。(京都府医大・医動物)

ライトトラップに捕集される蚊の時刻的消長について：中田五一・伊藤壽美代 Nakata, G. & Ito, S.: On the nocturnal activities of mosquitoes collected by the light trap

1956年8月上旬から9月上旬にかけて、京都市北郊深泥ガ池の池畔でライトトラップによる蚊の時刻的消長の調査を行つた。実験回数は約1週間間隔で4回実施し、毎回日没から夜明けまで1時間毎にトラップの受器を交換し、採れた蚊の種類、性、個体数を記録した。シナハマダラカは、雄は、やや明瞭な2山型の消長を示すが、雌は毎回非常に消長様相が違つている。キンイロヌマカとアシマダラヌマカは非常によく似た特異の消長を示し、いずれの実験回においても、雄は前半夜に多く、雌は後半夜に多い。アカツノフサカの雄は日没後30分乃至1時間に非常に顕著な山をつくるが、以後きわめて急減し、夜半過ぎにもう一度小山が現れ、以後夜明まで緩漫に減る。コガタアカイエカは第1回の実験では、雌雄共、日没後1時間あたりに顕著な山があり、以後深夜に向つて急減、日出1時間前にきわめて小さな山が出来るが、その後の実験回では次第に第1の山がくずれ、第2の山が高まり、最後には後の山の方が高くなる。この種の雌は、第1回実験では吸血している個体が多く、卵熟個体がなかつたが、以後次第に卵熟個体が殖え、吸血個体は認められなくなつた。温度、湿度、風向、明さ等の環境要因と消長との間には、因果関係が認められなかつた。以上の結果からライトトラップに捕集される蚊の時刻的消長は、種類によつていつも殆ど一定した消長傾向を示すものと、時期によつてかなり顕著な差を示すものがあり、短期間における実験の平均値的处理によつて、種の特有傾向を把握し、それを外的環境要因だけで説明しようと試みることは不合理である。(京都市衛研)

シナハマダラカ成虫の日中潜伏場所としての草地の条件(草地の蚊類群集に関する研究、第2報)：中尾舜一 Nakao, S.: Environmental conditions of the diur-